

# 高額療養費上限額の引き上げは撤回を

～安心して医療を受けられるように～



高額療養費制度は、大きな病気やケガなどで高額な医療費がかかった場合、負担額に上限を設けて一定額に抑えるもので、重い病気などの治療を必要とする患者、家族にとって「命綱」といえるものです。

自民党政権は、昨年の通常国会で上限額の引き上げ案を提出しましたが、患者団体や国民から厳しい批判を受け“凍結”に追い込まれていました。ところが高市政権は2026年8月から段階的に上限額を引き上げる新たな案を提出しました。

政府案では、高額療養費制度の患者負担の月額上限を、2026年8月と2027年8月の2段階で所得に応じて70歳未満で7～38%引き上げようとしています。年収700万円の人、現在の月額約8万円から約11万円と38%の負担増になります。また70歳以上の外来医療費に上限を設ける「外来特例」では、年収200万～370万円の人で、現在の月額1万8000円が2万8000円と55%の負担増になります。年4回以上の多数回該当の利用者（長期療養者）は限度額を据え置いただけです。

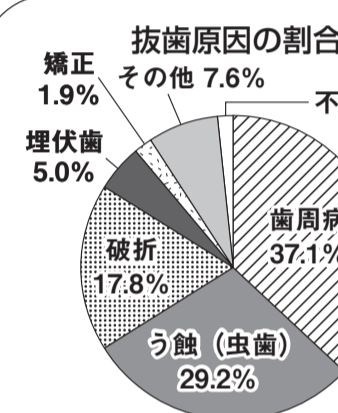
高市首相は、「持続可能性の確保と長期療養者や低所得者へのセーフティーネット機能の強化の両立を目指して見直す」としていますが、長期療養者の限度額も引き下げていない「見直し」であり「セーフティーネット機能の強化」と言えるものではありません。

高額療養費上限額の引き上げは撤回し、医療費の4兆円削減をすすめる医療費抑制政策を抜本的に転換して、誰もがお金の心配なく安心して医療を受けられることが求められます。

おおくぼ戸山診療所では、高齢化がすすむ地域での患者さんの声に応え、4月より訪問診療を毎週木曜・金曜午後を増やします。今までよりもより訪問診療を受けやすくなります。おおくぼ戸

訪問診療では、通院が困難な方、急性期病棟を退院された方、代々木病院退院後でおおくぼ戸山地域周辺の方、地域連携のつながりで地域のケアマネージャーからの紹介の方などを中心にお受けしています。

2月にこちらのおおくぼ戸山診療所へ異動してきました。それまで約20年にわたって訪問看護事業所において在宅分野で活動してきました。



平成30年11月公益財団法人8020推進財団「第2回永久歯の抜歯原因調査」より

口腔を清潔に保つこと、歯を喪失するリスクを軽減させることが出来れば、お口の中の点検を1本でも歯を失

# 地域の通院困難な患者さんの声にお応えして 訪問診療を受けやすくなります

おおくぼ戸山診療所

〈所長〉

代田和博医師

おおくぼ戸山診療所はこれまで毎週木曜午後の訪問診療でしたが、時間帯を増やし、4月からは毎週木曜・金曜午後の時間帯で訪問診療を行います。

〈師長〉

三浦純江看護師

訪問診療では、通院が困難な方、急性期病棟を退院された方、代々木病院退院後でおおくぼ戸山地域周辺の方、地域連携のつながりで地域のケアマネージャーからの紹介の方などを中心にお受けしています。

山診療所 長の代田和博医師と師長の三浦純江看護師にお話を伺いました。



こうした地域の方々が安心して、おおくぼ戸山診療所で医療を継続できるようにお応えしていければと思っております。どうぞお気軽にご相談ください。



## 代々木歯科コーナー

連載



歯を失ってしまう原因

—その14— 歯科医師 監物佐栄子

今回は歯を失ってしまった原因についてお話をします。

日本人が歯を失う原因のNo.1は歯周病です。2018年に報告された第2回永久歯の抜歯原因調査では、歯周病とむし歯だけで抜歯原因の6割以上を占めています。さらに、年齢が高くなることに失う歯の本数は多くな

り、2016年に行われた歯科疾患実態調査では、平均喪失本数が75〜79歳は10.3本、80〜84歳は12.9本、85歳以上になると17.5本になります。しかし年齢を重ねたからといって、必ずしも歯が抜けるとは限りません。虫歯や歯周病などの口内トラブルは、細菌感染によるもので、適切な口内ケアを行って口腔内を清潔に保つことで、歯を喪失するリスクを軽減させることが出来れば、お口の中の点検を1本でも歯を失

# サプリメントに頼らない生活

薬剤師 藤竿伊知郎 (元外苑企画商事)



(129)

## 薬の副作用「薬疹」を防ぐには

は細菌を叩く抗菌薬や、熱や痛みを抑える解熱鎮痛薬、かぜ薬、抗てんかん薬などです。市販の痛み止めによく使われる「NSAIDs(エヌセイズ)」と呼ばれる成分には注意が必要です。症状は、赤いポツポツや、蚊に刺されたような腫れが一般的です。まれなことですが、皮膚が広範囲に剥がれ落ちる、命に關わるケースもあります。38度以上の高熱、目の充血、唇や口の中のだれ、水ぶくれが現れたら、すぐに救急外来を受診してください。

医薬品の副作用には、量が多いことによる中毒性と、体質によるアレルギー性と2種類の原因があります。注意したいのが後者による「薬疹(やくしん)」です。原因になりやすいの

# 米国・イスラエルによるイラン攻撃は即時中止を!

千駄ヶ谷駅前宣伝



武力攻撃に厳しく抗議

3月9日、千駄ヶ谷駅前、定例の「9の日平和行動」を7人で行いました。

行動では、米国とイスラエルによるイランへの武力攻撃に抗議し、攻撃の即時中止を求めるスタンディングを行い、アピールしました。あわせて核戦争とならないようにと核廃絶署名も訴えました。

体を守る免疫のしくみが、薬などを敵と誤認して過剰反応することです。薬に初めて触れたとき、体内で「抗体」がつかれます。次に飲んだ時に激しい攻撃(炎症)が始まり、皮膚などの組織を傷つけます。そのため、飲み始めですぐではなく、1〜2週間ほど経ってから症状が出ることも珍しくありません。

アレルギー体質でも、原因物質にさらされなければ発症しません。薬疹が出たらすぐに服用を中止し、飲んでいた薬やサプリメントをすべて持って皮膚科へ行きましょう。医師に正確な情報を伝えることが、自分を守る第一歩になります。